

2011年5月28日(土)

13:30~17:30

奈良女子大学文学系 S 棟 1 階
128 講義室

申し込み不要・参加費無料

平城京は約 10 万人の人口を有し、また京とその周辺には多数の寺院が造られていた。多数の寺院があるのは、百済でも同様である。本研究会ではこれらに関し、古代都城の実態解明の一環として、京の住民と寺院の問題を取り上げ、検討を加えたい。

平城京の住民の中核は、京の戸籍に登録された京戸と呼ばれる人たちだった。京戸は固定的な存在で、京外の人を新たに京の戸籍に登録する京貫は、行われなかったともみられている。しかし実態はどうであったのだろうか。また、平城京の寺院と僧侶を管理する機関として、国家は僧綱を置いた。しかしその管理の実態や、管轄範囲はあまり明確になっていない。そこでこうした問題に、宍戸香美・中川由莉の両氏が迫る。

また百済では、最後の都であった泗泚(扶余)の定林寺・王興寺や、弥勒寺など古代寺院遺跡の発掘により、伽藍配置に関して新たな成果が蓄積されている。倭と関係の深かった百済寺院のあり方は、日本の古代仏教や都城を研究する上でも、注目すべきものである。韓国・国立中央博物館の李炳鎬氏に、最新の成果を報告していただく。

みやこを見直す

奈良女子大学古代学学術研究センター・国際研究会

宍戸 香美 (大学院人間文化研究科博士後期課程)

平城京における京貫の実態と京職の職務

中川 由莉 (大学院人間文化研究科博士後期課程)

奈良時代における僧綱の管理行政—管轄範囲をめぐって—

李 炳 鎬 (韓国・国立中央博物館)

通訳：井上 直樹 (京都府立大学)

最近発掘された百済の寺院について

問い合わせ先：奈良女子大学古代学学術研究センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 tel./fax. 0742-20-3779